

## 比米防衛協力強化協定 (EDCA) : フィリピンの主権の明け渡し ; 米国のアジア回帰の補助 BAYAN 日本支部

歴史的に見て、1947年の軍事基地協定が破棄されて以降も、フィリピンと米国との間で結ばれた軍事協定はいくつもある。1951年の相互防衛条約、1999年の訪問軍協定 (VFA)、2002年の相互兵站支援協定だ。防衛協力強化協定 (EDCA) は一連の不平等条約の最新のものだ。

4月28日、フィリピンと米国は防衛協力強化協定 (EDCA) に調印した。EDCAは両政府によって「行政協定」と定義された。つまり、正式な条約ではなく、それゆえ両国の上院での合意は必要とされない。2013年8月にEDCAの締結交渉が開始されたとき、それは当初、「ローテーションでのプレゼンスの増大に関する枠組み協定」と呼ばれていた。どういうわけか、その名前は米国とフィリピンの双方の願望を真に反映するEDCAに変更され、米軍のローテーションでの駐留をその一側面とし、防衛協力強化全般をカバーするところの、より包括的な協定となった。EDCAはこれまでの軍事条約の実施協定にすぎないと思われるという人々もいる。これは誤った見方だ。なぜなら、EDCAの条項は相互防衛条約やVFAなどのこれまでの条約をはるかにしのぐものだからだ。

EDCAはフィリピン民衆の利益になるものではまったくない。過去にでっちあげられた協定と同様、EDCAは一方向的に米国の利益となるものだ。さらに悪いことに、EDCAはフィリピン憲法を破壊し、フィリピンの主権を明らかに裏切り、一般のフィリピン人の生活を危険にさらすものだ。米国の経済的、政治的、軍事的、文化的なフィリピン支配には長い歴史があるが、EDCAはすべてのフィリピン人の生活に対する支配をさらに強化しようとするアメリカ帝国主義の遠大な計画を象徴するものだ。さらに言えば、それはアジア太平洋地域での覇権を維持しようとするアメリカ帝国主義の必死の策動だ。EDCAの中身を分析し、なぜ平和を愛する多くのフィリピン人がそれを拒絶しているのか、なぜ日本や世界の民衆もそれを拒絶しなければならないのかを見ていこう。

### EDCAの悪意はその条項の広範性のなかに隠されている

(第2条第4項) EDCAは米軍に広範囲の活動をなしうる「同意された場所」 (agreed location) を提供する。米軍がアクセスしうるエリア、どれだけの数の部隊が認められるのか、どれだけの期間フィリピンに駐留できるのかについての制限は設定されていない。1947年の比米軍事基地協定では米軍部隊はスービックとクラークの範囲に制限されていたが、EDCAの下では、米軍はフィリピンのどこにでも駐留でき、フィリピン法を侵害するであろう諸活動を行うことができる。

### EDCAの米軍の恒久的なプレゼンスを認めるものだ

(第1条第1項b) 米軍は「ローテーション根拠地」における「同意された施設」にアクセスする権限を与えられる。ローテーションとは単に隊員の交替を意味するに過ぎず、恒久的なプレゼンスを婉曲に言い表したものに過ぎない。演習、ローテーションでのプレゼンス、顧問としての能力は、すでにバリカタン演習やミンダナオでのフィリピン統合特殊作戦タスクフォー

スで実施されている。現在でも、VFAの下で、ミンダナオのローテーション根拠地を拠点に600人の米特殊部隊が存在している。EDCAはこれをさらに継続し強化するだろう。

### **EDCAはフィリピンを広大な米軍基地に変貌させる**

(第3条第1項) EDCAは米軍と民間請負会社に彼らが広範な活動を行う「同意された場所」へのアクセスを与えるだけでなく、その活動には訓練、支援、航空機への補給、車両への給油、車両の一時整備、隊員の宿泊、通信、装備・資材・備品の事前集積、部隊と物資の配備が含まれるがこれに限定されるものではない。これだけでも、いわゆる「同意された場所」が実質的な軍事基地として運営されうことは明らかだ。しかし、さらに警告すべきことは、EDCAが明らかに国内外双方での作戦に向けた米軍部隊と物資の配備のための足場として一軍事介入、無人機攻撃、ミサイル攻撃その他のフィリピンを米国の海外での紛争に巻き込むことになるだろう攻撃的な作戦の出撃拠点として一フィリピンを利用することを認めているということだ。EDCAはかつての比米軍事基地協定よりも明らかに広範な射程をもっている。この協定が「一時的アクセス」が意味するものを「トランジット」あるいは米軍が単に通過することとは異なるということ以外、定義していないことを強調する必要がある。

### **EDCAは米国に無制限の特権を与える**

(第3条第3項) 米軍は「同意された場所」に「賃借料や同様のコストなしで」アクセスできる。つまり、米軍は無制限のアクセスを手に入れるだけでなく、無料で駐留することができる。一方、協定の第7条第1項に明記されているように、米軍と軍事請負会社は水道や電気などの諸設備を税金を払うことなく使うことができ、その税金分はフィリピン政府が払わねばならない。第7条第2項では、無線周波の利用も無料とされている。

### **EDCAは民間軍事請負会社にも同様の特権を与える**

契約を請け負った会社は「同意された場所」および事前集積された資材や備品に「妨げられずにアクセスする」ことができる(第6条第4項)。米国の民間請負会社はその侵害行為と米国政府の責任をかくまうことで世界的に悪名高い。EDCAはフィリピンで活動する民間請負会社の数の増大をもたらすだろう。第8条第1項は、米軍が請負会社あるいは資材・備品・サービスを提供する人物の選択に関して制約なく民間人を雇うことができる。これらの民間請負会社も水道や電気などの諸設備を使う場合には税金を免除される。

### **兵器庫としてのフィリピン**

(第4条第1項) 米国は「同意された場所」や施設に装備の事前集積を認められる。これら事前集積された装備や軍需物資は、米国の排他的な利用のためのものとなる。それには、人道援助や災害対応のための備品が含まれるが、それだけではない。兵器やその他の危険な物資もフィリピンに備蓄しうる品目に入るだろう。フィリピンは巨大な兵器庫となろうとしており、フィリピン軍は米軍とその装備のための栄えある警備員になろうとしている。ここにはフィリピン軍の近代化を助けるものは何もない。EDCAは核兵器の事前集積を認めていないが、そのフィリピンの領土を通過については沈黙している。

## 誰が実際の管理者なのか？

(第3条第4項) フィリピンが管理者だというのは単なる幻想だ。なぜなら、米軍は「同意された場所」の「作戦管理」を維持し、恒久的施設の建設や既存の施設の改善を行い、自分たちの治安手段をその場所に課す権限をもつからだ。フィリピンの当局者は「同意された場所」のすべてのエリアへのアクセスをもつが、それは二国間で合意された「治安上の要件」に従属する(第3条第5項) これにもとづいて、米国側が運営する施設へのフィリピン側のアクセスは、米国が設定した「治安上の要件」を満たさねばならない。フィリピンはすべての施設の所有権を、少なくとも紙の上では、持っている。米国がつくった恒久的施設を含めて「同意された場所」は、米国がそれらを使わなくなったならば、いったんフィリピンに返還される。米国が自分たちが行った改善や建設の補償を受ける可能性はある。

## フィリピンはその手を縛る皮ひもにつながれている

第11条の下で、フィリピンはこの協定から生じる紛争を国内・国際のどの裁判所、第三者の仲裁機関にも持ち込むことができない。すべての紛争は両当事者間による諮問機関を通して排他的に解決される。これは効果的にフィリピンの手を縛り、国際刑事裁判所の以前に実質的に米軍に不処罰を与えるものである。米海軍艇ガーディアンズのトゥバタハ環礁での座礁と同じような環境被害の場合について、EDCAは賠償のガイドラインを提供していない(第10条。環境について)。危険物資や廃棄物の意図しない放出や石油の流出についてさえも、EDCAは米国がそうした危険物を封じ込めるための行動を取ると書いているが、被害の賠償については沈黙している。付随的に、第9条第3項は米国が実際には危険物資や危険な廃棄物をフィリピンに持ち込んでいることを暗示している。

## EDCAの期限は定められていない

第7条第4項ではこの協定は当初は10年間の効力をもち、「当事者のどちらかが終了させないかぎり、自動的に有効であり続ける」と述べている。この協定の不明瞭な性格、そしてフィリピン全土への米軍のローテーションでの駐留が明らかとなつたいまでは、EDCAは疑いもなく比米軍事基地協定よりもいっそう悪いものである。

EDCAは本質的には、異なる名前で、より柔軟なアレンジで、より広範な範囲で、しかし同じ機能と目的をもって、米軍基地を舞い戻らせようとするものだ。それはまた、米軍による女性、そして民衆に対する数々の虐待をも舞い戻らせるものだ。最近の米兵の手によるフィリピン人トランスジェンダーの死は、なぜフィリピン人は米軍基地とフィリピンにおける米軍部隊の存在を嫌悪するのかというもうひとつの深刻な問題をさらに前面に押し出した。どれだけのフィリピン人が殺されてきただろうか？どれだけの女性がレイプされてきただろうか？しかし、私たちフィリピン人はこれらの虐待への正義を求めるには力が弱い。昔も今も、私たちの民衆としての権利や利益ではなく、常に私たちが虐待する者、私たちが苦しめる者の側に常に立つ私たちの政府のおかげで。

明らかに、EDCAは2012年に発表された文書「米国のグローバルなリーダーシップの維持：21世紀における国防の優先課題」に述べられた米国のアジア回帰のひとつの明確な表現だ。政

治家たちは、これは他国、とりわけ中国の侵略に対するフィリピンへの保護を保障するよいものと言う。しかし、私たちはこのようなくだらない話を信じることはできない。米国は決してフィリピン民衆の利益を気にかけてはしないし、フィリピンに味方して中国との対決を決意したりはしない。

米国は太平洋国家として自己を確立し、この地域におけるその帝国主義的計画を前進させ、台頭する大国である中国を包囲しようとしている。「中国の脅威」は米国によってそのアジア回帰の婉曲表現して使われている。真実は、中国との友好的な関係を維持することは、紛争が起こったときにフィリピンを守るよりも、米国にとってはるかに大きな利益なのだ。EDCAには中国の侵入を抑止しないし、協定にはそれに関する条項はない。比米相互防衛条約もそれを保障していない。

フィリピン人は長期にわたってアメリカ帝国主義とたたかっている。私たちは米国のような帝国主義国がどのように考えるか、それが何を意味するか、彼らが口を開き話し出す前から知っている。EDCAは民族としての私たちの主権への侮辱だ。EDCAは米国のこの地域での帝国主義的な侵略と介入のためにフィリピンを植民地的な前哨へとするものだ。EDCAは主に民衆運動によって推進された1991年のフィリピン上院による基地の拒絶の成果をひっくり返すようにするものだ。

EDCAはVFA（訪問軍協定）や他の先行する狡猾な諸協定が達成できなかったこと、すなわち、米軍部隊の恒久的なプレゼンスを確保し、すべては正式な条約もないままなされたより広範囲で、より柔軟で、より一方的な協定の下で、フィリピンに米軍基地を舞い戻すだろう。フィリピン民衆にとっては得るものは何もない。なぜなら、アメリカ帝国主義はEDCAを支え、そこから引き出せるすべての利益を食べ尽くしてしまうだろうからだ。アメリカ帝国主義だけが、戦力投射とフィリピンおよびこの地域の他国への軍事介入のための足場をさらに強めることを狙ったこの不平等な協定から利益を得るのだ。

私たち民衆は、これに対して行動しなければ後退してしまいます。今こそ、これまでのどんなときにも増して、EDCAや同様の協定に抵抗し、米国をはじめとした帝国主義を打ち倒すために、私たちの連帯を強めるときです。なぜならば、それが真の自由と民主主義、正義、反映、恒久平和の実現に向かう私たちの道にそびえ立つ、最大の問題として残っているからだ。

フィリピン民衆のたたかいと共に、米国をはじめ帝国主義国とともにフィリピン政府によって導入されたEDCA、VFA、その他の一方的な協定粉砕！と声をあげてください。世界の民衆は団結し、帝国主義を打倒しよう！

ありがとうございます。